



【 講演会： あれから 5 年 9 か月、被災地 釜石の変化と現状 】

～ 12月11日（日） 聖アンデレ主教座聖堂 ～

東日本大震災からまもなく 5 年 9 か月が経ちます。東京では 2020 年のオリンピックや豊洲問題、政治や経済、世界情勢の報道はあっても、大震災で浮かび上がった原子力発電所を巡る議論や被災地復興の現状など足もとで起きていることの報道を目にすることは殆ど無いと言っても過言ではありません。

災害対応チームでは、そうした中、各教会や他の教派で行われる報告会を共有し、少しでも現地を知る機会を設けるよう努め、これまで、福島県新地町、福島県郡山や原町などを紹介してきました。

このたび、岩手県釜石市で地元の市民ボランティアと共に活動する任意の支援団体「釜石支援センター望」代表、海老原祐治さんをお招きして話しを伺うことになりました。

2011 年 8 月から 2013 年まで「釜石被災者支援センター」のセンター長を務められた海老原さんには、当時、多くの教会信徒や学生が現地ボランティアや現地巡りなどで大変お世話になりました。今も釜石市で生活する海老原さんから、変わりゆく現地の様子や感じておられることをお話いただき、今一度、私たちが思い考える機会にしたいと思います。

釜石支援センター望 代表 海老原祐治さんに聴く

～ 5 年 9 か月を経た釜石の変化と現状 ～

日時： 12月11日（日） 17時30分から

* 聖アンデレ教会の 17 時からの晩祷終了後

お話し： 海老原祐治さん（釜石支援センター望 代表）

会場： 東京教区 聖アンデレ主教座聖堂（東京都港区芝公園 3-6-18）

・地下鉄日比谷線：神谷町駅より徒歩 7 分 ・地下鉄大江戸線：赤羽橋駅より徒歩 7 分

<主催：東京教区災害対応チーム>

なお、当日 11 日、主教座聖堂では 14 時 30 分から 15 時「午後 2 時 46 分の黙想と祈り」（東日本大震災を憶えて）。その後 15 時 30 分からは「教区合同堅信式」です。併せてご案内いたします。

日本聖公会 東京教区事務所 災害対応デスク

【お願い】 災害対応チームでは、聖公会各教会、また聖公会と交流があり支援活動を続ける諸団体からの情報や要望を伺い、ここに紹介ご案内しています。各教会で、自然災害に伴う被災者支援などにかかわる何等かの活動計画をお持ちの場合、是非ご連絡くださいますようお願いいたします。教区全体・教会間で分かち合えるよう、主催の趣旨や教会のご意向に沿って、教区内へのお知らせ・ご案内をさせていただきます。（例えば、お話しを聴く会、報告会、学びの集い、ボランティア要員の募集、教会施設を用いた交流会など）